



市長

新年、おめでとうございます。

南丹市長の佐々木稔納です。成人式の実行委員をしていただいているといふことで、ありがとうございます。若い世代の方々のお考えやご意見を直接伺いする機会が少ないのが現状です。今日はぜひ、お2人が日ごろ思われていることや、この南丹市について一緒に考える有意義な時間に行きましょう。

山内さん

私は、山内愛美と申します。今日はよろしくお願ひします。八木町出身で、現在、滋賀大学に通っています。教育学部で障害児教育コースを専攻しています、保育士の免許を取る勉強をしています。京都が好きなので、できれば将来は地元で保育

士として仕事をしたいと思っています。

西村さん

西村直美と申します。私も八木町出身で今も住んでいます。京都産業大学に通っていて、日本文化について勉強しています。将来は旅行とか京都にかかわる仕事がしたいと思っています。よろしくお願ひします。

市長

お2人とも、進みたい道をしつかり持つておられますね。だいたい10代のころは、夢を抱きながらもなかなか具体的などころがなかったのが、20歳ぐらいになると、周りに就職する人も出てくるし現実も見えてくるものですよ。だから、今まさにその具現化した目標を目指して努力する、地盤となる時期だと思っています。

さて、南丹市の『まちづくり』について、私の方からお話しさせていただきますと思います。平成21年となって、1月1日で南丹市も4年目になりました。4つのまちが一緒になって、それぞれ築いてきた歴史や

特徴を大切にする一方で、やはり「南丹市」という新しいまちになったからには「南丹市」としてのまちづくりを進めていかなければなりません。そんな中で、今年の3月に「南丹市総合振興計画」という、10年後の南丹市はこういうまちにしたいという目標を作りました。これは、市役所だけで作ったものではなくて、市民の方や委員さんに協議をしていただいて形になったものです。これを基本として、まちづくりの施策に取り組んでいるわけですが、今、大変財政が厳しい状態です。皆さんからお預かりしている税金を使うわけですから、「行政経営」



▲検討委員会で「市民協働」のかたちについて意見交換

という観点を持つて、伸ばすものは伸ばす、見直すものは見直して、しっかり判断して取り組んでいかなければなりません。そんな中で、まちづくりというのは、市役所だけでできるものではないんです。市役所でやること、市民の皆さん方にやってもらうことがあって、皆さん方の多様なニーズに合った税金の使い方ができるように一緒に考えていこうということ。これを「市民協働」と言います。今、市民と共に担うまちづくり手法検討委員会で取り組み方などの研究を進めていただいております。昨年夏には市政懇談会で皆さんのいろんな意見も聞かせていただきました。課題はたくさんありますが、何が求められているのか、皆さんの意見をどんどん聞かせていただいで、ニーズに対応できるように体制づくりを進めていきたいと思います。平成21年、やっぱり合併して良かったと思っていただけ今年にするべく、取り組んでいきます。

子育てのしやすいまち

山内さん

私は今、幼児教育とか、子育て